

## 「未来に伝える山形の宝」の事業が始まりました!

### ■「未来に伝える山形の宝」ってなに？

山形県では、地域に残る様々な文化財を保存・活用しながら、地域活性化や交流の拡大につなげていくことを目的に「未来に伝える山形の宝」登録制度を創設しました。真室川町では、「旧矢島街道でつなぐ加無山系番楽と女甌山の大カツラ」が登録されました。

### ■「旧矢島街道でつなぐ加無山系番楽と女甌山の大カツラ」とは？

真室川町には、昔から修験者の山岳修行の地として知られている男甌山・女甌山があり、修験道に由来する地名や伝説が多く残されています。また、この地内を通る旧矢島街道を伝わってきたとされる「番楽」も伝承されており、「山岳信仰」の結びつきが強い地域です。町では、「山岳信仰」というテーマで、番楽と女甌山の大カツラに関する言い伝えなどの資料の収集・整理、外部へのPR活動を行い、歴史的・文化的付加価値を高め、「未来に伝える山形の宝」として今後も受け継いでいく活動を行っていきます。



■女甌山の大カツラ  
(林野庁森の巨人たち百選)



■平枝番楽  
(町指定無形民俗文化財)



■釜淵番楽  
(町指定無形民俗文化財)



■八敷代番楽  
(町指定無形民俗文化財)

## 「甌山番楽奉納祭」を開催!

6月7日(土)には、『甌山番楽奉納祭』が女甌山の大カツラの前で行われ、釜淵番楽保存会が獅子舞を奉納しました。笛や鐘の音が響き渡る中、この大自然の中へ山の神が舞い降り、そこに修験者(山伏)が伝えたと言われる番楽が融合する情景に、参加者は魅了されていました。



こうした伝承文化などの地域の宝は、一部の地域の方々や行政だけで守り、受け継いでいけるものではありません。多くの方々から光をあててもらい、支えてもらうことで受け継いでいけるものです。地域に伝わる「未来に伝える山形の宝」として、皆様のご協力をいただきながら、これからも守り続けていきます。